

Sunk cost と歴史を学ぶことについて

まず Sunk cost fallacy とは、

(例1) 将棋において「よし、今回は矢倉囲い戦法で行こう」

→「やば、飛車取られた……。でもここで戦法を変えたら飛車の犠牲が無駄になる。最後までこの戦法で行こう。飛車の犠牲は無駄にはしない！」

→「詰んだ……」

Sunk cost: 飛車 Sunk cost fallacy: 強引な戦法の維持

(例2) 「自転車で京都まで行くぞ！（雨の中テントを荷台に載せ、自転車をこぎはじめる）」

→「(富士山ふもとの山中湖で) 気温4度！？ やばい……。四月だから大丈夫だと思って防寒着もって来てない。寒い。もう標高差1100M 駆け上がってきて体力に余裕がない。ここ抜けると集落はない。……気温4度じゃテントに入っても寒いぞ……。どうしよう……。素泊まりの宿泊まろう」

→「(2日後) 名古屋に着いた。初日に宿に泊まったから、予定外の出費が出た。帰りは電車で帰るつもりだったから、ここで終えれば電車代で安くなって、差額が少し取り戻せる。……明日帰ろう」

Sunk cost: 初日の素泊まりの宿代

Sunk cost fallacy: 京都まで行く計画を名古屋で妥協するという決断

(例3) 「レポート終わったぞ」

→「(数日後) テストの過去問見たけど、意外と難しそうだな。単位取れないかもしれない。まだ申告はしてないし、授業変えようかな……。でももうレポートひとつ書きちゃったし、最後までこの授業受けよう。(結構、授業の内容も面白そうだし)」

→「単位落とした……」

Sunk cost ; レポートを書いた労力

Sunk cost fallacy: (ある意味で) その授業を受け続けたこと

のようなものだと話を進めます。つまり、もう取り戻せない犠牲に執着して、考えを誤ることだと。(歴史との関連を考えるのに、上の例は不適當ですが。)

Sunk cost fallacy を踏まえたうえで、歴史を学ぶことの意義を考えていこうとしました。しかし、どう考えても歴史を学ぶことを Sunk cost をつかって議論する方法が思いつきません。まず、歴史のどの部分を Sunk cost だと、決めることができるのでしょうか。また sunk cost fallacy は「もしこの損失がなかったら……」と考えることで起こりやすくなります。しかし、歴史はその時代の流れの中で起こった出来事の積み重ねです。その個々の出来事が起こったのには理由があり、その意味で歴史は必然です。つまり歴史上であったこと

と似た「流れ」が起こったときに、歴史はその先を教えてください。つまり歴史はある種の教訓としてとらえるべきです。これこそが歴史を学ぶことの意義になります。地図を持って山を歩いたほうが安全で合理的なように、歴史から得た教訓を持っていることには意味があると思います。やや抽象的な話でしたが、科学者が原爆を作ったことなどの過去の歴史を踏まえて、科学者倫理は形成されてきました。歴史を無視して同じ過ちを繰り返すことは許されません。

「過去の戦争によって対立感情を持つこと」を議論の遡上に載せることも一瞬考えました。しかし、それが正しいか正しくないかはわからないことだし、**fallacy** だと決め付けることはできません。ハーバード白熱授業のサンデル教授の質問の中に、「祖先が犯した罪を償うべきかどうか」というのがありました。どちらかといえば、そちらに近いと思います。